**指導者用デジタル教科書（教材）**

**音声テキスト**

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。

目次

[P. 7　リズムでなかよくなろう 2](#_Toc76736722)

[P. 8　ドレミで歌おう 2](#_Toc76736723)

[くぐり 2](#_Toc76736724)

[またぎ 2](#_Toc76736725)

[P. 9　ト音の書き方 2](#_Toc76736726)

[P. 20　リコーダーのえんそうのしかた 3](#_Toc76736727)

[P. 23　練習１ 4](#_Toc76736728)

[P. 30, 31　でリズム 5](#_Toc76736729)

[１ 5](#_Toc76736730)

[２ 5](#_Toc76736731)

[P. 36　歌声 6](#_Toc76736732)

[P. 48, 49　いろいろな 6](#_Toc76736733)

[トランペット 6](#_Toc76736734)

[ホルン 6](#_Toc76736735)

[トロンボーン 6](#_Toc76736736)

[チューバ 6](#_Toc76736737)

[P. 58　使われている 7](#_Toc76736738)

[たいこ 7](#_Toc76736739)

[ふえ 7](#_Toc76736740)

[かね 7](#_Toc76736741)

[P. 59　使われている 8](#_Toc76736742)

[たいこ 8](#_Toc76736743)

[ふえ 8](#_Toc76736744)

[かね 8](#_Toc76736745)

[P. 60　ほぞん会 さんのお話 9](#_Toc76736746)

[P. 61　使われている 10](#_Toc76736747)

[だいこ 10](#_Toc76736748)

[しめだいこ 10](#_Toc76736749)

[かね 10](#_Toc76736750)

[しのぶえ 10](#_Toc76736751)

[P. 62　「げ合い」の 11](#_Toc76736752)

[P. 63　たいこにちょうせん 11](#_Toc76736753)

[しめだいこ 11](#_Toc76736754)

[だいこ 11](#_Toc76736755)

[P. 65　の書き方 12](#_Toc76736756)

[２部 12](#_Toc76736757)

[４部 12](#_Toc76736758)

# P. 7　リズムでなかよくなろう

リズムをよくきいて、みんなはそれをまねて、ってみてください。それでは、はじめます。

リズムをかえてちます。

は、リーダーがつリズムをまねして、それをリレーしてみましょう。それでは、はじめます。

にのって、うまくリレーすることができましたね。

# P. 8　ドレミで歌おう

## くぐり

「ドレミで歌おう」の１だん目をひくときは、「くぐり」をします。「ミ」のあとで、がの下をくぐるようにしましょう。では、2回ひきます。

## またぎ

「ドレミで歌おう」の2だん目をひくときは、「指またぎ」をします。「ファ」のあとで、がの上をまたぐようにしましょう。では、2回ひきます。

# P. 9　ト音の書き方

このを、ト音といいます。ト音を書きます。

# P. 20　リコーダーのえんそうのしかた

教室のみなさん、さあ、いっしょに、リコーダーを手にとってみましょう。右手で下のほうをって、左手ので、うしろの音あなにそっとふれて、人さし、、のじゅんに、音あなをとじていきましょう。ここをのといいます。この指のを音あなにふれて、そっととじましょう。おさえたり、ふさいだりして、力が入らないようにしましょう。に、右手の人さし、、、のじゅんに、音あなをとじましょう。このように、音あなをさすると、音あながとじていることが、よく分かります。はいので、このをに近づけるように、こうして回しましょう。それではに、右手の、、、人さし。は、左手の、と、音あなをじゅん番にけてみましょう。左手の人さしと、、そして、右手のが、リコーダーにさわっていますね？ ほかのは、上にあげすぎないように、気をつけましょう。この右手ののいちは、リコーダーをバランスよくささえるために、とても大切なポイントです。に、あごを引いて、せすじをにのばしましょう。歌口を下くちびるにそっとのせ、このように、上くちびるをそっとつつむようにのせます。このとき、でかんだり、くわえたりしないように、しましょう。

# P. 23　練習１

では、リコーダーで、歌うようにふいてみましょう。左手のと人さしで、音あなをとじて、右手のは、このあたりでささえます。これが「シ」の音のづかいです。では、シの音で（～♪）、はい。

もう（～♪）、はい。

はい、とってもきれいに、歌うようにひびきましたね。

# P. 30, 31　でリズム

## １

まず、のリズムを、にのって、でってみましょう。

小さいまとまりのリズムが、くりされているのが、分かりましたか？ は教科書の、もとのリズムをってみましょう。

小さいまとまりのリズムがくりされたあとに、大きいまとまりのリズムがつづくと、後半のじがかわって、が生まれましたね。もとのリズムは、このようなしくみでできています。

## ２

教室のみんなも、このしくみをにしながら、「タン」と「タタ」のリズムを使って、４のまとまりのあるリズムをつくってみましょう。

「ぼくは、小さなまとまりのリズムでは、『タタ』の一つだけを使って、後半の大きいまとまりのリズムでは、『タタ』を多めに使ってをつけてみました。」

# P. 36　歌声

まず、歌うときのしせいをたしかめてみましょう。足をくいて、せなかをのばしたまま、かたを上げ、かただけをゆっくり下ろして、歌うときのしせいをつくります。声を、おでこのあたりにひびかせて、を遠くのほうへとどかせるようなじで、歌いましょう。

がなめらかにれていますか？ こんなじになっていませんか？

このような歌い方だと、のびのびとしたじが出ませんね。

のれがよくなって、のびのびとした歌声になりますね。

# P. 48, 49　いろいろな

## トランペット

これは、トランペットです。

## ホルン

これは、ホルンです。

## トロンボーン

これは、トロンボーンです。

## チューバ

これは、チューバです。

# P. 58　使われている

## たいこ

では、「しめだいこ」をえんそうします。たいこのえんそうには、のまりやを、かけ声で知らせたり、のさをめたりするやくわりがあります。しめだいこは、のをひもでしめた、たいこです。

## ふえ

ふえは、竹でできたです。をにかまえて、えんそうします。日本のふえには、いろいろなしゅるいがありますが、では、「のうかん」というふえを、えんそうします。

## かね

かねは、金ぞくでできたです。「」では、をめたばかりの９さいから１９さいくらいの人たちが、かねをえんそうします。このように、ひもでつるしてえんそうするのが、とくちょうです。これは、かねのです。三角でされた「コン」や、３つの丸を線でむすんだ「チキチン」などの音を組み合わせて、えんそうします。

# P. 59　使われている

## たいこ

ねぶたでは、けいが９３cm、長さが１m１０cmある、とても大きなたいこをえんそうします。「」の部分は、を組み合わせて作られており、のは、のロープでしめられています。

## ふえ

ふえは、竹でできたです。をにかまえて、ふきます。日本のふえには、いろいろなしゅるいがありますが、ねぶたでは、「しのぶえ」というふえを、えんそうします。

## かね

かねは、金ぞくでできたです。ねぶたでえんそうするかねは、シンバルを小さくしたような形をしており、「り」あるいは「」と、よばれています。たいこやふえのえんそうをよくきいて、をたもっていくやくわりがあります。

# P. 60　ほぞん会 さんのお話

東京都ので行われます、でえんそういたします。のでえんそうしたり、のおみこしや、についてまわって、えんそうしたりもします。

からつづく「日本三大り」のひとつのおりです。今では、２年に一度の５月に、さいされます。

は、「だいこ」1人、「しめだいこ」2人、「しのぶえ」1人、「かね」1人の５人１組でこうせいされる、です。

おはやしは、ではありません。遠くから聞こえてくるおはやしに、ついさそわれて、外に出てきたの方々のおり気分を、もりあげます。

「げ合い」は、おはやしの中で一番にぎやかなです。がのる、おみこしをかつぐ人たちが、「げ合い」のリズムにのって、にぎやかにかついでもらうと、気分はさい高です。

# P. 61　使われている

## だいこ

だいこは、木でできたのに、びょうでをとめた、たいこです。「ドン」というひくい音がします。では、このたいこのことを「」、あるいは「大だいこ」といいます。

## しめだいこ

しめだいこは、両面のを、ひもでしめた、たいこです。「テン」という高い音がします。では、このたいこのことを「べ」といい、二人でえんそうします。

## かね

かねは、金ぞくでできたです。では、こののことを「」といいます。ほかの４人のえんそうをける、大切なやくわりをもっています。

## しのぶえ

しのぶえは、「しのだけ」というしゅるいの、竹でできたで、せんりつをえんそうします。では、その音色が、鳥のとんびの鳴き声ににていることから、しのぶえのことを「トンビ」といいます。

# P. 62　「げ合い」の

しめだいこのをおぼえましょう。

をおぼえたら、しのぶえに合わせて、を歌ったり、リズムをったりしてみましょう。

# P. 63　たいこにちょうせん

## しめだいこ

これは、しめだいこです。かん高くて、はなやかな音がします。の先たんで、の中心を、少し外してちます。それでは、えんそうしてみます。

## だいこ

これは、だいこです。鉄のびょうでをにちつけてあるので、「だいこ」ともよばれています。の先たんで、の中心をちます。また、ふちをつ場合もあります。それでは、えんそうしてみます。

# P. 65　の書き方

## ２分

２分は、このように書きます。さいしょに玉を書いて、次にぼうを上から書きます。

## ４分

４分は、このように書きます。さいしょに玉を書いて、次にぼうを上から書きます。